



平成25年度

国際海事機関(IMO)と連携したPSC地域組織への  
専門家派遣

南米PSC地域組織への専門家派遣

事業報告書



公益財団法人 東京エムオウユウ事務局

## 目次

I	事業の目的	-----	3
II	平成 25 年度の活動概要	-----	4
III	過去に実施した研修の現在までの成果	-----	6
IV	今後の予定と課題	-----	7

### 添付資料

1	アルゼンチンでの事前調査報告書	-----	8
2	アルゼンチンでの研修報告書	-----	23

## I 事業の目的

公益財団法人東京エムオウユウ事務局は、「アジア太平洋地域の寄港国検査（Port State Control : PSC）に関する覚書」が1993年12月に締結されたのを契機に、設立され、2013年で20周年を迎えました。この覚書は東京で締結されたため、通称、「東京MOU」と呼ばれています。現在19カ国・地域が加盟していますが、東京MOUの目的は加盟した海事当局が協力してサブスタンダード（基準不適合）船を撲滅し、海上安全や海洋環境の保全を確保することです。

この目的を達成するには、PSCを執行する各国職員の養成や能力向上が不可欠であり、本財団は、1994年の設立以来、域内各国で研修やセミナーを実施してきました。この効果もあり、東京MOU域内の検査件数は、先行した欧州のPSC地域組織（通称パリMOU、1982年設立）に肩を並べるまでになりました。また、最近は、国際海事機関（IMO）の要請を受け、発展途上にある世界各地のPSC地域組織からの研修生を本財団が主催する研修コースに受け入れています。

東京MOU域内の検査件数は伸びて来ましたが、中国などの経済発展により入域隻数は近年大幅に増え、検査できない船も多く存在します。東京MOU域内の検査体制を一層強化する必要がありますが、各国とも職員の大幅な増員は難しい状況です。また、研修等によって検査技術の向上を図り効率を上げる努力も続けていますが、限界もあります。

このため、隣接する地域組織と連携を図り、東京MOU地域と隣接地域を往来する船舶に対する検査を確実に実施することが適切と考えました。この連携を実現するため、日本財団の支援を得て、検査技術・件数も十分とは言えない隣接するPSC地域組織に東京MOU域内の専門家を派遣し、能力アップを図る事業を始めることとしました。まず、インド洋地域に対し、平成21年度から23年度まで3カ年計画で実施しました。インド洋MOU加盟国であるオーストラリアはこれらの研修を高く評価し、2013年暦年からはオーストラリア政府資金によって、インド洋エムオウユウ地域における東京エムオウユウによるPSC研修が継続されています。

インド洋地域への2010年度の事業から本事業の有益性を把握し、研修参加者に対する旅費を支援してくれるようになった国際海事機関（IMO）と連携し、平成24年度からは3カ年計画で南米地域へ専門家を派遣、現地で研修を実施しています。本報告書は、南米地域への専門家派遣事業の2年目の活動をまとめたものです。

## II 平成 25 年度の活動概要

### 1. 事前準備

平成25年10月28～31日に東京で開催された東京MOU・PSC委員会の際、アルゼンチンへの専門家派遣について各国に打診したところ、豪州、チリ、カナダ、日本が前向きな姿勢を示したので、これらの各国から1名ずつ合計4名の専門家を派遣することにしました。また、現地で研修開催国及び専門家との調整を行うため、当財団職員1名を同国に派遣することにしました。

### 2. アルゼンチンへの事前調査

平成26年1月23～28日に、アルゼンチンのブエノスアイレスのPrefectura Naval Argentina（アルゼンチン水上警察）及び南米PSC地域組織(Viña del Mar Agreement)事務局を訪問し、研修計画について詳細な協議を行うとともに、研修施設等の調査を行いました。当該協議において、研修を平成26年3月10日～21日に開催することで合意しました。事前調査の詳細については、**添付1**をご覧ください。

### 3. アルゼンチン・ブエノスアイレスでの研修

- 1) 研修は平成26年3月10日～21日に開催されました。昨年度のエクアドルでの研修に引き続き、国際海事機関（IMO）が南米PSC地域組織以外からの参加者6名と南米PSC地域内からの参加者2名、合計8名の旅費を負担してくれることになりました。
- 2) 参加者は合計19名で、南米PSC地域組織からは、アルゼンチン6名、ブラジル1名（IMO負担）、チリ1名、コロンビア1名、メキシコ1名（IMO負担）、パナマ1名、ペルー1名、域外からは、ナイジェリア1名、グルジア1名、トリニダード・トバゴ1名、バングラデッシュ1名、トルコ1名、オマーン1名、セントビンセント及びグレナディーン諸島1名（最後の1名は自費参加、それ以外の参加者はIMO負担）が参加しました。
- 3) 研修準備に当たっては、過去3年間のインド洋MOU（イラン、インド、ケニア及び南アフリカ）と2012年度のエクアドルでの研修結果を考慮し、研修生の経験・レベルに応じ、柔軟な講義とするため、ケーススタディ等の充実を図りました。
- 4) 研修は無事終了し、多くの参加者から、これまで受講したPSC研修の中で最高の内容であるとの高い評価を得ました。他地域からの参加者からは、彼らの地域において、東京MOUの専門家による研修の実施を望む声がありました。ブエノスアイレス研修の詳細については、**添付2**をご覧ください。専門家を派遣していただいた豪州、カナダ、チリ及び日本の海事当局に感謝いたします。

### 4. 成果

アルゼンチンは全国に50名のPSC職員を配し、19の港でPSCを行っています。国内研修は初級者用、上級者用及び通信教育を実施しており、PSC検査データベースも充実している、昨年研修を実施したのエクアドルよりもはるかにPSC体制は整っています。アル

ゼンチンPSC当局は、東京MOUの研修が自国のPSC活動のみならず、南米PSC地域組織加盟国のPSC活動の向上につながればと、今回の研修を主催しました。

アルゼンチンからは6名のPSC職員が研修に参加しましたが、全員が国内の初級者コースは修了済みでした。PSC職員は旗国検査業務等の他業務も抱え、PSC実務をじっくり学ぶ余裕がないというのが実情のようです。実習の際の時間配分や欠陥事項の指摘方法等から、PSC経験が浅いように見受けられました。アルゼンチンからの参加者が、今回の研修で得た正しい知識やスキルを国内の同僚PSC職員のみならず、アルゼンチンに本部を置く南米PSC地域事務局を通じ、加盟国にも普及してくれると考えています。アルゼンチン以外からは各国1名の参加でしたが、彼らも彼らの国の同僚PSC職員に正しい知識やスキルを普及してくれるものと期待しています。なお、PSCに特化した国際的研修を行っている機関は少なく、IMOも今回研修を支援してくれました。



### III 過去に実施した研修の現在までの成果

#### 1. エクアドルでの研修(2013年3月)の成果

##### 1) 検査件数(南米PSC地域組織データベースより)

2013年7月からはコンスタントにPSCを実施していることがわかります。2013年4月から6月の検査件数がゼロなのは、研修にも参加した、エクアドルのPSCをそれまでリードしていたPSC職員が、同年4月に船員に戻るため組織を去ったことが関係していると思わます。その後、同年11月には22件の検査件数を記録しています。南米PSC組織事務局やエクアドル当局と連絡を取り、今後も動向の調査を続ける予定です。

月	検査件数
2013年1月	0
2013年2月	2
2013年3月(研修実施月)	10
2013年4月	0
2013年5月	0
2013年6月	0
2013年7月	5
2013年8月	10
2013年9月	1
2013年10月	18
2013年11月	22
2013年12月	15
2014年1月	6

## IV 今後の予定と課題

昨年度のエクアドルに引き続き、二年目の今年度はアルゼンチンに専門家を派遣し研修を行いました。エクアドルでの研修同様、IMOは合計8名（内、南米PSC地域内2名）の資金援助（研修参加旅費）をしました。最終年である次年度は、ペルーに専門家を派遣し研修を実施する予定です。このため、来年度はペルーに事前調査団を派遣し、開催場所やカリキュラムの編成等について協議するとともに、専門家の手配についても関係国と調整します。また、IMOと研修参加に対する旅費支援についても協議を進めます。さらに、研修の成果を数値的に評価するため、PSC検査データ等の分析を進めます。なお、南米PSC地域組織では、PSC検索データをリアルタイムで公表する等のシステムが最近になって完成しました。当該システムはデータ分析に役立つと考えられています。

南米 PSC 地域事務局は、昨年のエクアドル及び今回の研修の有効性を高く評価し、このような研修を継続的に実施するための資金確保の検討(各国から少しずつ拠出してもらう等)を開始したとのことです。彼らが何とか資金を得て研修が継続することを願っています。また、要請があれば研修カリキュラムや講義資料の作成などに協力していきたいと考えています。

## 添付 1

### アルゼンチンの事前調査報告書

現地日程表

日	項目	場所
2014年1月22日(水)~ 2014年1月23日(木)	移動(成田~ダラス~ブエノスアイレス23日着)	
2014年1月23日(木)	午後:水上正史在アルゼンチン日本国大使館大使及び板倉輝幸一等書記官表敬訪問	ブエノスアイレス
2014年1月24日(金)	Prefectura Naval Argentina (英訳 Argentine Coast Guard)及び Viña del Mar Agreement (南米PSC地域組織)事務局訪問 ・ Prefectura Naval Argentina 幹部表敬訪問 ・ 研修計画打ち合わせ(出席者は別紙1)	ブエノスアイレス
2014年1月25日(土)	休日(調査報告まとめ等)	
2014年1月26日(日)		
2014年1月27日(月)	研修計画打ち合わせ(続き)	ブエノスアイレス
2014年1月28日(火)	VTS及びブエノスアイレス港視察	ブエノスアイレス
2014年1月28日(火)~ 2014年1月30日(木)	移動(ブエノスアイレス~ダラス~成田30日着)	

1. 調査場所  
ブエノスアイレス (Prefectura Naval Argentina、研修施設、港湾施設等)
2. 現地調査派遣者  
岡田 光豊 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 顧問  
(Secretary of the Tokyo MOU Secretariat)  
秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長  
(Projects Officer of the Tokyo MOU Secretariat)
3. 調査概要  
3.1 Prefectura Naval Argentina との会合 (1月24日及び1月28日)  
1月24日 Prefectura Naval Argentina 司令長官 (Prefecto General: 英訳 Admiral Commandant) Luis Alberto Heiler 氏 及び、Director Pulicia de Seguridad de la Navegación (英訳: Safety of Navigation Policy Directorate) の局長(Prefecto General: 英訳 Rear Admiral) Jorge Alberto de Gesús を表敬訪問した。両者から、このような地域間協力、PSC 検査官研修の実績とノウハウを持つ東京エムオウユウからの支援に感謝すると  
の歓迎が述べられた。両日の会合出席者は別紙1のとおりである。

表敬訪問と打ち合わせの後、Prefectura Naval Argentina 内のインフォメーションセンター (el Centro de Información del Acuerdo、略 CIALA) を訪問した。ここでは、アルゼンチン全土から関連情報を収集している。また、南米 PSC 地域各国の P S C データもここに送られ、管理されている。

事前に送ってあった計画表と暫定時間割に基づき、早速個々の項目について打ち合わせを開始した。2日間の打ち合わせで、確認・合意したことは以下の項目である。

#### 3.1.1 トレーニングコースの日程

2014年3月10日(月)～21日(金)

#### 3.1.2 トレーニングコースの場所

Prefectura Naval Argentina 講堂

宿泊は市内の近隣ホテル。

#### 3.1.3 参加国・参加者数

アルゼンチンからは6名、他の南米 PSC 地域組織加盟14か国 (メキシコ及びブラジルからの参加者はIMO負担)からは1名ずつ14名、IMO負担で、他地域6(ABUJA, Black Sea, Caribbean, Indian Ocean, Medierranean 及び Riyadh)MOU から計6名計26名を予定している。またアルゼンチンはオブザーバーとして数名を参加させたい意向。

#### 3.1.4 講師

日本、オーストラリア、カナダ及びチリからそれぞれ1名ずつ計4名が決定していることを伝達。

### 3.1.5 講義資料

資料は印刷せずに、電子ファイルを最終日に各研修生に配ることで同意した。また講義中、SOLAS, MARPOL 等の主な条約本（英語版）最新版を会場に配置することとした。

### 3.1.6 研修内容

#### ①座学

南米 PSC 地域組織事務局から要請があった下記科目は、提供可能と伝える。

1. Tankers/Chemical Tankers (Inert Gas System – Loading and Discharge Monitoring System).
2. Tankers/Chemical Tankers (Transportation of LNG).
3. Safety of Navigation (Chapter V, SOLAS 74/88).
4. Additional Safety Measures applicable to Bulk Carriers (Chapter XII, SOLAS 74/88)

#### ②実船訓練

- (ア) 実船訓練も案のとおり 2 回で合意。
- (イ) 参加者を専門家の数である 4 グループに分け、それぞれのグループにアルゼンチンの PSC 官を最低 1 名配置し、その PSC 官が PSC を行い、専門家は彼らの PSC を観察し、PSC の後、参加者を交えグループ毎に討議する方法を取る。
- (ウ) ブエノスアイレス港（ラプラタ川）で実習船各日 4 隻計 8 隻は確保できるとのこと。専用ボートで乗船予定。確保できなければ、往復最低 2 時間程度かかる港（CAMPANA 及び ZARATE）での実習も検討する。
- (エ) 万が一実習船の数が確保できない場合は、Virtual PSC 等を行う。

- ③ 合意された時間割は別紙 2 のとおり。

### 3.1.7 費用分担

アルゼンチンが以下の費用を負担することで合意した。

- ① トレーニング名、スポンサー名などを記したバナー
- ② 研修生用資料作成（最終日に配布する講義資料の CD 等）
- ③ 昼食
- ④ 1 日 2 回のコーヒーブレイク
- ⑤ 研修生及び講師の空港ホテル間の送迎
- ⑥ 実船訓練の移動費
- ⑦ 研修生および講師用船上実習用作業衣、ヘルメット、軍手、耳栓等（安全靴は各自持参）
- ⑧ 15 日（土）の市内観光

一方、東京エムオウユウが以下の費用を負担することで合意した。

- ① 講師旅費宿泊費
- ② 歓迎パーティ

### 3.1.8 その他

#### ① 言語

参加者の大半はスペイン語を母国語とするが、南米 PSC 地域組織事務局からは、PSC 業務は英語で行うのだから、研修は英語で実施してほしいと念を押された。また、同事務局はエクアドルでの研修では同時通訳の環境が用意されたことに言及しつつ、アルゼンチンでは敢えて同時通訳は用意せずに、各研修生に直接講義等の内容を理解してもらう方針である。しかし、Prefectura Naval Argentina の Internaional Affairs Department には英語・スペイン語間の専用通訳が数名おり、必要に応じて彼らに手伝ってもらう可能性も示唆した。

#### ② 宿泊施設

専門家及び参加者の宿泊は、Prefectura Naval Argentina が推薦する 3 件ないし 4 件の近隣ホテルの中から、各自が予約することで同意した。なお、各ホテルと、研修会場の Prefectura Naval Argentina 間は、送迎を手配するとのことだった。

### 3.2 ブエノスアイレス港視察（1月28日午前）

VTS(Vessel Tracking System)を見学したあと、アルゼンチン最大かつ最も重要な港であるブエノスアイレス港を視察した。悪天候のため、あいにく車窓から半時間程度の視察となった。アルゼンチンへの全輸入貨物の 50%は同港で取扱い、コンテナに関しては同港を経由するものは 99%に上り、その数は年間約 200 万 TEU とのこと。訪れたバースで特定できたのは、客船 2 隻とバルクキャリアー 1 隻だった。

### 3.3 アルゼンチンにおける PSC

#### ① 組織

PSC は、Prefectura Naval Argentina（英語名 Argentine Coast Guard）の Director Pulicía de Seguridad de la Navegación（英語名 Safety of Navigation Policy Directorate）が管轄している。局長は、Jorge Alberto de Jesús 氏。Prefectura Naval Argentina は、Admiral Commandant (Luis Alberto Heiler 氏) が率いており、保安省 (Ministerio de Seguridad) の直轄である。

#### ② PSC 官

アルゼンチンには、外国船が入港する港が全国で 19 ある。全国の PSC 官は計 50 名。港の規模等によって、最大 5 名の PSC 官が各港に配置されている。全員が旗国検査官等との兼任。全員が、Prefectura Naval Argentina が所有する船舶等での乗船勤務経験者である。乗船兼務経験は、PSC 官の重要な資格要件のひとつで

ある。PSC 官はその経験によって、Level 1 と Level 2 の資格に分かれている。

PSC には通常 2 名以上で行く。ラプラタ港(Puerto la Plata, ブエノスアイレス中心よりの南 10 キロ)では、沖に投錨中の船舶で PSC を実施することがあり、その場合、効率的な PSC を実施するために 4 名で行くこともある。

### ③ PSC 統計

南米 PSC 地域組織事務局が公表している、アルゼンチンの過去 3 年の PSC 統計は以下のとおりである。

西暦	検査件数	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2010	1,781	11,870	17	0.95%
2011	1,991	15,113	8	0.35%
2012	1,708	7,939	3	1.18%

参考：南米 PSC 地域全体

西暦	検査件数	欠陥数	航行停止処分数	航行停止処分率
2010	8,586	20,942	108	1.25%
2011	8,710	23,153	107	1.23%
2012	8,946	13,315	91	1.26%

アルゼンチンでの 2013 年検査隻数に基づく検査実績は別紙 3 のとおり。検査率は 37%と、国内目標検査率 25%及び地域目標検査率 20%を大きく上回っている。船種別検査実績を見ると、バルクキャリアーが約半数を占めており、次にケミカルタンカーが続いている。実際入港するのはコンテナ船が最も多いが、コンテナ船は停泊時間が短いので、PSC を実施しにくいようだ。

## 3.4 南米 PSC 地域組織

### 3.4.1 事務局

事務局は、Prefectura Naval Argentina の International Affaris Department 内に置かれている。International Affaris Department は、Admiral Commandant (Luis Alberto Heiler 氏)の直接の配下にある。Secretary(事務局長)の Andrés Manuel Monzón 氏以外は、現役の Prefectura Naval Argentina 職員で、ほとんどが他業務を兼務している。以下 6 名で運営されている。

- Secretary: Mr. Andrés Manuel MONZÓN
- Deputy Secretary: Mr. Eduardo Gabriel CUTROPÍA
- Officer of the Agreement: Mr. Carlos Rene MAFKA
- Officer of the Agreement: Mr. Gustavo Alfredo PETRYK
- Administrator for CIALA: Mr. Arnaldo Ariel VALLEJOS
- Assistant for the Secretariat: Claudio N. PRIETO

なお、Mafka 氏と Petryk 氏はそれぞれ、東京エムオウユウが主催した 2013 年 3 月のエクアドルでの研修と 2008 年 6 月の横浜での基礎研修(Basic Training Couser)の受講者である。

### 3.4.2 拠出金

事務局の運営及びその他の活動は Prefectura Naval Argentina の予算で運営されているので、加盟国は拠出金を払っていない。

### 3.4.3 PSC 研修

PSC 官の育成は、各加盟国の責任で行うという立場を取っているので、地域全体の研修プログラムは存在しない。アルゼンチン国内では、初任者研修(Basic)と経験者向け(advanced)を毎年開催している。また、パソコンを利用する通信教育も行っている。いずれの研修も、加盟国は自国の費用で参加可能である。

各加盟国における自国 PSC 官用の研修では、アルゼンチン、ブラジルもしくはチリ等から専門家を送ることもある。

### 3.4.3 PSC 統計

#### ① 検査目標値

前年に入港した外国船舶隻数の最低 20%を検査することを地域目標としている。英訳は”REACH THE MINIMUM LEVEL OF INSPECTIONS OF 20% OF DIFFERENT FOREIGN SHIPS WHICH HAVE ENTERED PORTS DURING THE LAST YEAR.”

#### ② 地域検査率

地域全体の検査率は公表していない。その理由は、一部の加盟国が入港船舶隻数を完全に把握していないためである。ちなみにアルゼンチンは入港船舶隻数を把握している。東京エムオウユウ同様、Lloyds' List から PSC データ提供と引き換えに入港データを入手しているので、各国独自の数値でなく、Lloyds' List の入港データを共通の基盤とした地域検査率を出すことも検討しているとのことだった。

#### ③ 航行停止処分率

2012 年で見ると、地域全体の航行停止処分が 1.26%と同年の東京エムオウユウの 4.59%、パリ MOU の 3.65%と比べると低い。2013 年の統計は未発表であるが、10 月までの数値から察すると、恐らく 1%を下回るものと予想される。南米 PSC 地域組織事務局の説明によると、低下の理由の分析はしていないが、質の良い船が寄港するようになったこと、また地域全体として、コード 30 (detainable deficiency)より、コード 17(rectify deficiency before departure)の使用を促進している結果ではないかとのことだった。

## 3.5 ブエノスアイレス一般情報

- ① ブエノスアイレスは、人口 **289** 万人を擁するアルゼンチンの首都である。
- ② ブエノスアイレス中心部を昼間は歩いても問題ないが、日本人の被害状況としては、空港・公園・道路上・公共交通機関等でのわずかな隙を狙ったひったくりや置き引き、スリ等が引き続き報告されている。流しのタクシー利用は避け、無線タクシー（ラジオタクシー）またはレミース（**REMIS**）と呼ばれるハイヤーを利用するよう  
とよい。レミースは一般のタクシーより若干割高だが、短距離でも利用でき、ホテルのフロント等で依頼可能。空港から市内までは、空港から市内のホテルまでは、  
1台あたり **290~320** ペソ程度。
- ③ ブエノスアイレスの3月の平均気温は **21** 度。最高気温は **26** 度、最低は **17** 度。
- ④ 英語を解する人は少ない。



Prefectura Naval Argentina での会合出席者



Prefectura Naval Argentina ビル



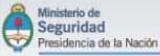
Luis Arbelto Heiler 長官表敬訪問



ブエノスアイレス市内



ブエノスアイレス市内



Ministerio de Seguridad  
Presidencia de la Nación



**PREFECTURA  
NAVAL ARGENTINA**  
PROTECCIÓN DE LAS AGUAS Y EL COMERCIO DESDE 1810



AUTORIDAD  
MARÍTIMA NACIONAL

---

31 de Enero de 2014

**Inicio**

Institucional

Actividades

Educación

Ordenanzas

Prefectura en la OMI

Guía de trámites

Consultas / Reclamos

**0800-888-7730**  
Lunes a Viernes 9 a 17 hs.

**Emergencias**  
**106**

**Guía de Prefecturas**

**Ministerio de Seguridad**  
Presidencia de la Nación

**Seguro de Vida**  
Personal Retirado

**Atención a las víctimas de la VIOLENCIA**

**Trata de Personas**

**CENTRO INTEGRAL DE GÉNERO**

Instituto Universitario de **SEGURIDAD MARÍTIMA**

**IMO**

**NOTICIAS**

**VISITA DEL SECRETARIO DEL MEMORANDO DE ENTENDIMIENTO DE TOKIO**



El Prefecto Nacional Naval, prefecto general Luis Alberto Heiler, recibió al Secretario del Memorando de Entendimiento de Tokio (TMOU), Mitsutoyo Okada y a la Directora de Capacitación Fumiko Akimoto, que visitaron la institución.

El Memorando de Entendimiento de Tokio es una organización cooperativa intergubernamental sobre supervisión por el Estado Rector del Puerto en la Región de Asia y el Pacífico.

El principal objetivo de la mencionada organización es promover la efectiva implementación de los instrumentos de la Organización Marítima Internacional (OMI) y de la Organización Internacional del Trabajo (OIT) en los buques que operan en la región que representan.

En este sentido, Prefectura, como autoridad marítima nacional, es el órgano de aplicación de la mayoría de los instrumentos de la OMI, adoptados por la Argentina. Entre sus funciones, ejerce los derechos de supervisión por el Estado Rector del Puerto, tarea que en la región se armoniza a través del Acuerdo Latinoamericano sobre control de buques por el Estado Rector del Puerto, Acuerdo de Viña del Mar, cuya Secretaría y Centro de datos administra la institución.

La visita tuvo como propósito intercambiar información y evaluar las propuestas para implementar actividades de capacitación en esta materia.

**OTRAS NOTICIAS**

- ▶ MISIONES: SECUESTRO DE 184 KILOS DE DROGA Y UN DETENIDO
- ▶ SECUESTRO DE 500 CARTONES DE CIGARRILLOS, SEIS DETENIDOS
- ▶ MOTOS DE AGUA: SEGURIDAD DE DEPORTISTAS NÁUTICOS
- ▶ SECUESTRO DE MÁS DE 193 KILOS DE MARIHUANA Y TRES DETENIDOS EN MISIONES
- ▶ NAUFRAGIO EN NEUQUÉN: DOS EFECTIVOS DE PREFECTURA RESCATARON A LOS TRIPULANTES DE UNA EMBARCACIÓN

Buenos Aires  
**25.8°**

Alertas meteorológicas  
Clima extendido  
**El clima**

Altura de los  
**RÍOS**

Avisos a los  
**NAVEGANTES**

Reservas de  
**CANAL**

Tasa Fija Anual

Ingreso a  
**PREFECTURA ON LINE**

Compras y Contrataciones

**PASOS FRONTERIZOS**

Servidor Nacional AIS

**LRIT**  
Centro Nacional de Datos

Protección Marítima  
**PBIP**  
AUTORIDAD MARÍTIMA NACIONAL

carta compromiso con el ciudadano

## 別紙 1

### ブエノスアイレスでのミーティング出席者名簿

- Mr. Luis Alberto Heiler, Admiral Commandant, Prefectura Naval Argentina
- Mr. Jorge Alberto de Gesús Rear Admiral
- Mr. Andrés Monzón, Rear Admiral (Ret) and Secretary of Viña del Mar Agreement Secretariat
- Mr. Eduardo Gabriel Cutripía, Under-Secretary of Viña del Mar Agreement Secretariat
- Mrs. Carolina Gamboa, Officer in charge of the Technical Co-operation Section
- Mr. Roberto Tomas Annichini, Prefecto Mayor, Secretario en Asuntos Internacionales

\* \* \*

## 別紙 2

## Tentative Time Table of Expert Mission in Buenos Aires, Argentina

Date		Activity	Instructor
9-Mar-2013/Sun		Arrival of experts and participants in Buenos Aires	
10-Mar-14 Mon	08:30 - 09:00	Preparation	VMA TMOU Australia
	09:00 - 10:00	Opening Ceremony and Introduction (Remarks by the host Authority, VMA, TMOU and self-introduction of participants)	
	10:00 - 10:30	Coffee Break	
	10:30 - 11:30	Activities of Viña del Mar Agreement	
	11:30 - 12:00	Activities of Tokyo MOU	
	12:00 - 13:00	Relevant Instrument Overview (SOLAS, LL, MARPOL, STCW, Tonnage, COLREG, CLC, MLC2006)	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	Continued: Relevant Instrument Overview	
	15:00 - 15:30	Coffee Break	
	15:30 - 16:30	Overview (IMO Resolution A. 1052 (27) excluding 1.8, 1.9 and Appendix 1)	Australia
11-Mar-14 Tue	08:30 - 09:00	<b>RECAP</b>	Leader
	09:00 - 10:30	<b>PSC Guidelines for SOLAS I &amp; SOLAS II-1 (A, A-1, B, B-1, B-2, B-3 &amp; B-4)</b>	Canada
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 13:00	<b>PSC Guidelines for SOLAS II-1 (C, D, E &amp; F) &amp; SOLAS II-2</b>	Japan
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	<b>PSC Guidelines for SOLAS III</b>	Japan
	15:00 - 15:30	Coffee break	
	15:30 - 16:30	Continued: PSC Guidelines for SOLAS III PSC Guidelines for SOLAS IV	Japan
12-Mar-14 Wed	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:30	<b>PSC Guidelines for SOLAS V</b>	Japan
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 13:00	<b>PSC Guidelines for Operational Requirements</b>	Canada
	13:00 - 14:00	Lunch	Australia
	14:00 - 15:00	<b>PSC Guidelines for SOLAS IX &amp; ISM Code</b>	
	15:00 - 15:30	Coffee break	Australia
	15:30 - 16:00	Continue: PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	
	16:00 - 16:30	Questions and answers	
13-Mar-14 Thu	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:30	<b>PSC Guidelines for SOLAS VI, XI-1 (Reg.2) and XII</b>	Australia
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 12:00	<b>PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 &amp; 5), XI-2 &amp; ISPS Code</b>	Japan
	12:00 - 13:00	<b>PSC Guidelines for Load Lines</b>	Canada
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	<b>PSC Guidelines for STCW</b>	Canada
	15:00 - 15:30	Coffee break	
	15:30 - 16:30	<b>PSC Guidelines for MARPOL II</b>	Chile
14-Mar14 Fri	08:30 - 09:00	RECAP	Leader
	09:00 - 10:30	<b>PSC Guidelines for MARPOL I (including Inert Gas System)</b>	Chile
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 13:00	<b>PSC Guidelines for MARPOL III, SOLAS VII &amp; IMDG Code including transportation of LNG</b>	Chile
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 - 15:00	<b>PSC Guidelines for MARPOL IV, V &amp; VI</b>	Chile
	15:00 - 15:30	Coffee break	
	15:30 - 16:30	Continue: PSC Guidelines for MARPOL IV,V & VI	Chile

Date		Activity	Instructor
15-Mar-14 Sat		Buenos Aires City Tour	
16-Mar-14 Sun			
17-Mar-14 Mon	08:30 - 09:00	RECAP	Leader Canada
	09:00 - 10:30	PSC Procedures (selection of target ships, PSC inspections, detention procedure, etc.)	
	10:30 -11:00	Coffee Break	
	11:00 - 11:45	PSCO Responsibility And Appeal Procedures	TMOU Instructors
	11:45 - 13:00	Case study or exercise	
	13:00 - 14:00	Lunch	
18-Mar-14 Tue	14:00 - 15:00	Preparation for On-board Inspection 1: selection of ships, grouping of participants, explanation of presentations of the outcomes etc.	Argentina
	15:00 -15:30	Coffee break	
	15:30 -16:30	Continued: Preparation for On-board Inspection 1	
19-Mar-14 Wed	08:30 -13:00	1 <sup>st</sup> On-board Inspection by group	Instructors will observe the PSC and comment it later.
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 -16:30	Review of the training 1, discussion and preparation for presentations by group (to be interrupted by a coffee break.)	
20-Mar-14 Thu	08:30 -09:30	Preparation for a presentation by group	Argentina
	09:30 -10:30	Presentations of the outcomes of the training 1 (Groups A & B)	
	10:30 -11:00	Coffee break	
	11:00 -12:00	Presentations of the outcomes of the training 1 (Groups C & D)	
	12:00 -13:00	Observations of instructors	
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 -15:00	Preparation for On-board Inspection 2	
	15:00 -15:30	Coffee break	
15:30 -16:30	Continued: Preparation for On-board Inspection 2		
21-Mar-14 Fri	08:30 -13:00	2 <sup>nd</sup> On-board Inspection by group	Instructors will observe the PSC and comment it later.
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 -16:30	Review of the training 2, discussion and preparation for a presentation by group (to be interrupted by a coffee break.)	
22-Mar-14 Sat	08:00 -08:30	Preparation for a presentation by group	Argentina
	08:30 -09:30	Presentations of the outcomes of the training 2 (Groups A & B)	
	09:30 -10:00	Coffee break	
	10:00 - 11:00	Presentations of the outcomes of the training 2 (Groups C & D)	
	11:00 -12:00	Observations of instructors	
	12:00 -13:00	Closing Ceremony (Remarks by the host Authority, VMA and TMOU Secretariats and the expert) Awarding certificates to the participants	

Time allocated: to Australia, 6 hours; to Chile, 5.5 hours; to Japan, 6.5 hours; to Canada, 6.5 hours

### 別紙 3

#### ①2013年におけるアルゼンチンでのPSC統計

	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	TOTAL
入港延べ隻数	373	281	365	475	610	369	355	403	322	272	303	317	4445
入港純隻数	204	172	225	307	355	237	213	239	188	131	174	138	2583
検査隻数	68	75	96	97	116	102	82	86	72	55	54	46	949
検査率(%)	33.33	43.60	42.67	31.60	32.68	43.04	38.50	35.98	38.30	41.98	31.03	33.33	37

(参考)

地域目標： 20%

アルゼンチン国内の目標 25%

②2013 年船種別 PSC 実績 (隻数)

	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	TOTAL
<b>BULK CARRIER</b>	<b>30</b>	<b>33</b>	<b>55</b>	<b>75</b>	<b>82</b>	<b>65</b>	<b>56</b>	<b>45</b>	<b>32</b>	<b>24</b>	<b>19</b>	<b>16</b>	<b>532</b>
<b>GENERAL DRY CARGO</b>	<b>2</b>	<b>8</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>54</b>
<b>DREDGE</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>
<b>VEHICLES CARRIER</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>1</b>		<b>0</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>14</b>
<b>WOODEN CHIP CARRIER</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>20</b>
<b>CONTAINERS</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>11</b>	<b>11</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>62</b>
<b>PASSENGERS</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>25</b>
<b>CHEMICAL TANKER</b>	<b>12</b>	<b>18</b>	<b>14</b>	<b>11</b>	<b>17</b>	<b>16</b>	<b>13</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>14</b>	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>170</b>
<b>REFRIGERATED CARGO</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>18</b>
<b>GAS CARRIER</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>16</b>
<b>OIL TANKER</b>	<b>6</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>37</b>
	<b>68</b>	<b>75</b>	<b>96</b>	<b>97</b>	<b>116</b>	<b>102</b>	<b>82</b>	<b>86</b>	<b>72</b>	<b>56</b>	<b>53</b>	<b>46</b>	<b>949</b>

## 添付 2

### アルゼンチンでの研修報告書

#### 現地日程表

日	行動	場所
2014年3月7日(金)～2014年3月8日(土)	移動(成田空港～ドバイ～リオデジャネイロ～ブエノスアイレス)	
2014年3月9日(日)	準備	
2014年3月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開講式</li> <li>● PSCに関する座学研修</li> </ul>	Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月11日(火)～ 2014年3月14日(金)	PSCに関する座学研修	Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月15日(土)	郊外観光	
2014年3月16日(日)	休日	
2014年3月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PSCに関する座学研修</li> <li>● 第1回PSC実船訓練準備</li> </ul>	Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回PSC実船訓練(計2隻)</li> <li>● ケーススタディ等</li> </ul>	ブエノスアイレス港  Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2回PSC実船訓練(計2隻)</li> <li>● ケーススタディ等</li> </ul>	ブエノスアイレス港  Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月20日(木)	● グループ別実習内容プレゼンテーション及び講師講評	Prefectura Naval Argentina 講堂
2014年3月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修まとめ</li> <li>● 閉講式</li> </ul> 移動(ブエノスアイレス～リオデジャネイロ～ドバイ～成田空港 23日着)	Prefectura Naval Argentina 講堂

1. 現地派遣者（敬称略）

講師

- 1) Michael Hickman, Port Marine Surveyor, Ship Safety – North, Ship Safety Division, Australian Maritime Safety Authority (AMSA)
- 2) Jatinder Gill, Senior Marine Inspector, Marine Safety and Security, Compliance, Enforcement and Cargo Service, Transport Canada (TME-VAN), Government of Canada
- 3) Roberto Gaete, PSC Officer in Central South District, Chile
- 4) 大山 元, 国土交通省 近畿運輸局 海上安全環境部 首席外国船舶監督官

コーディネーター

- 1) 秋元 文子 公益財団法人 東京エムオウユウ事務局 業務課長 (Projects Officer)

2. 研修主催者

Prefectura Naval Argentina

3. 日程

3.1 開講式

- a) 2013年3月11日（月）午前8時30分より、Prefectura Naval Argentinaの講堂にて開講式が開催された。最初に Prefectura Naval Argentina 司令長官 (Prefecto General: 英訳 Admiral Commandant) Luis Alberto Heiler 氏から祝辞をいただいた。引き続き、Viña del Mar Agreement（南米 PSC 地域組織）事務局長の Andrés Manuel Monzon 氏が挨拶をした。両者とも、東京エムオウユウの協力、日本財団及び国際海事機関（IMO）の資金援助に感謝の辞が述べた。祝辞はスペイン語で行われ、同時通訳により英語に訳された。式には、副司令長官の Genardo Crespo 氏と Safety of Navigation Policy Directorate) の局長(Prefecto General: 英訳 Rear Admiral) Jorge Alberto de Gesús 氏も出席していた。Andrés Manuel Monzon 氏の祝辞（英訳）は別紙 1 のとおりである。
- b) 次に東京エムオウユウ事務局秋元文子が、事務局長挨拶を代読した。これは同時通訳により、スペイン語に訳された。事務局挨拶は別紙 2 のとおりである。
- c) 引き続き Roberto Gaete 氏（チリ）が講師陣を代表しスペイン語で挨拶を行った。これは同時通訳により、英語に訳された。
- d) その後、講師及び研修参加者が自己紹介を行った。

### 3.2 研修参加者及び国際海事機関（IMO）の資金援助

研修参加者は計 19 名であった。内 8 名に関しては、IMO が、南米 PSC 地域組織を含む 7 地域の MOU からそれぞれ 1 名ずつ招へいし、参加費用を負担した。また、カリブ海地域 PSC 組織から 1 名が自国の費用で参加した。参加者の内訳は以下の通りである。

① 南米 PSC 地域組織加盟国参加者（10 名）（参加費用は自国負担）

アルゼンチン 6 名

チリ 1 名

コロンビア 1 名

パナマ 1 名

ペルー 1 名

エクアドルから 1 名が参加予定だったが、実際参加はなかった。

② IMO 資金援助者（8 名）

ブラジル(南米 PSC 地域組織) 1 名

メキシコ(南米 PSC 地域組織) 1 名

ナイジェリア（中西部アフリカ地域 PSC 地域組織） 1 名

グルジア（黒海 PSC 地域 MOU） 1 名

トリニダード・トバゴ（カリブ海地域 PSC 組織）

バングラデシュ（インド洋 MOU） 1 名

トルコ（地中海 PSC 地域 MOU） 1 名

オマーン（リヤド（中近東）PSC 組織） 1 名

③ 域外自国費用参加者（1 名）

セントビンセント及びグレナディーン諸島(カリブ海地域 PSC 組織)1 名

セントクリストファー・ネーヴィスから 1 名が自国の費用で参加予定だったが、取りやめとなった。

全参加者リストは、別紙 3 の通りである。

### 3.3 座学研修

① 時間割

開講式の後、事務局とアルゼンチン当局で事前に合意した時間割に基づき、講義を開始した。なお、時間割は研修開催中に現地での状況等により内容を一部修正し、最終的には別紙 4 とした。

② 各種アレンジ

- a) チリの Robeto Gaete 氏はインドで 2013 年にエクアドルで行われた第一回南米 PSC 地域組織における PSC 研修で講師チームリーダーに経験があり、好評を博したこと、またスペイン語を母国語とすることから、同氏を今回の研修の講師チームリーダーに再び任命し、また研修の進行や現地とのコーディネート補佐も引き受けてもらった。
- b) 講義は英語で行われた。
- c) 全教材は Prefectura Naval Argentina が、事前にあるいは講義中に参加者が仮想サーバー (Virtual Cloud) から各自教材をダウンロードできるように手配した。そのため教材は、ケーススタディの課題以外は紙でも DVD 等での電子メディアでも配られなかった。
- d) 座学中机は教室型に配置されており、参加者が毎日座席を代わるよう工夫した。

③ 研修内容

1 日目 (3 月 10 日 月曜日)

2.1 に記載された開講関連の行事が終わった後、南米 PSC 地域組織副事務局長、Capt. Eduardo Gabriel Cutropia 氏が南米 PSC 地域の PSC に関するプレゼンテーションを行った。続いて秋元文子が、東京エムオウユウの活動に関するプレゼンテーションを行った。

その後、Michael Hickman 氏 (オーストラリア) が、SOLAS, Load Line, MARPOL, STCW, Tonnage, COLREG 及び MLC2006 の概要 (Overview Conventions) の講義を行った。Hickman 氏は、概要の説明の前に IMO の組織や役割に触れた。この日に予定されていた IMO Resolution A. 1052(27)の講義は、時間の関係で翌日に回すこととした。

2 日目 (3 月 11 日 火曜日)

講義開始前、前日の Michael Hickman 氏の講義に対する質疑応答が行われた。

引き続き Michael Hickman 氏が IMO Resolution A. 1052(27)の講義を行った。船舶拘留措置 (Detention) の定義や、その措置に至る明らかな理由 (Clear grounds)等を、実際の事例を交えて説明した。活発な質疑応答が展開された。一部の質問は、旗国としての立場のものも含まれていた。

引き続き、Jatinder Gill (Canada)氏が以下の講義を行った。

- SOLAS 第 I 章 (一般規定)
- 同条約第 II-1 章 構造 (構造、区画及び復元性)

SOLAS 第 I 章の講義には、事例研究も含み、参加者は積極的に参加していた。

昼食をはさみ、その後、大山 元氏（日本）が以下の講義を行った。欠陥の箇所の写真も多数使用した実践的講義となった。

- 同条約第 II-1 章 構造（機関及び電気設備）

休憩後、引き続き同氏が以下の講義を行った。欠陥の箇所の写真も多数使用した実践的講義となった。

- 同条約第 II-2 章 構造（防火並びに火災探知及び消火）

欠陥の箇所の写真を多数使用した熱のこもった実践的講義となり、一部は翌日に持ち越されることとなった。

### 3 日目（3 月 12 日 水曜日）

リーダーが、昨日の講義に関する質問を募ったが、特に挙げられなかったので、大山 元氏が、SOLAS 条約第 II-2 章 構造（防火並びに火災探知及び消火）の続きを開始した。

引き続き、大山氏が以下の講義を行った。

- 同条約第 III 章 救命設備

休憩後、救命艇の離脱装置についてのビデオを上映した。

引き続き大山氏は以下の講義を行った。

- 同条約第 IV 章 無線通信
- 同第 V 章 航行の安全

昼食をはさみ、Jatinder Gill (カナダ)が以下の講義を行った。

- 操作要件(Operational Requirements)

休憩後、Michael Hickman 氏（オーストラリア）が以下の講義を繰り上げて行った。

- 同条約 IX 章及び ISM コード

講義は 2 題の事例研究も含んでいた。この分野を得意とする Hickman 氏の白熱した講義となり、続きは翌日に持ち越されることになった。

### 4 日目（3 月 13 日 木曜日）

Michael Hickman 氏が、SOLAS 条約 IX 章及び ISM コードの続きを開始した。

引き続き、Hickman 氏が以下のばら積み船に関する以下の講義を行った。ばら積み船に関する講義は、事前に南米 PSC 地域組織事務局から扱ってほしいとの依頼を受けていたもののひとつであった。講義には演習問題や事例研究が含まれていて、講師は参加者積極的参

加を促した。

- SOLAS 条約 XII 章
- 同条約 VI 章
- 同条約 XI-1 Regulation 2 (Enhanced surveys)

昼食をはさみ、大山 元氏が以下の講義を行った。

- 同 X1-2 章及び ISPS コード 海上の安全性を高めるための特別措置第 2 規則及び国際保安コード

休憩後、Jatinder Gill 氏（カナダ）が、以下の講義を行った。

- 満載喫水線に関する国際条約(International Convention on Load Lines, 1966)

#### 5 日目（3 月 14 日 金曜日）

講義開始前、リーダーの Gaete 氏は翌週の実船訓練のグループ分けを発表した（詳細は下記 3.4）。その後、参加者全員がひとりずつ前日までの研修に対する印象や意見を発表する機会を設けた。全員が、有意義な研修であり、充実した内容の講義を提供している講師への感謝を述べた。これまで受講した中で、最高の研修とまで述べる参加者がいた。また他国の PSC 官との交流・意見交換の場を与えられたことに対する感謝の辞もあった。

日本の講師の、パワーポイントの機能を駆使した手の込んだプレゼンテーションには、わかりやすいとの賛辞が寄せられた。

Jatinder Gill 氏が、満載喫水線に関する国際条約を、昨日の続きから開始した。

休憩をはさみ、Roberto Gaete 氏（チリ）が以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 I 油による汚染の防止のための規則

事前に南米 PSC 地域組織事務局からタンカーの仕組みと、不活性ガス（イナータガス）装置を扱ってほしいとの依頼を受けていたので、Gaete 氏は講義の中で強調して説明をしていた。

昼食後、Roberto Gaete 氏が引き続き以下の講義を行った。

- 同条約付属書 II（ばら積み有害液体物質による汚染防止）

事前に南米 PSC 地域組織事務局から、ケミカルタンカーの仕組みを詳しく扱ってほしいとの依頼を受けていたので、Gaete 氏は講義の中で図を用いて丁寧に説明をしていた。また、Gaete 氏の講義の中には事例研究も含まれていた。

6 日目 (3 月 17 日 月曜日)

Roberto Gaete 氏 (チリ) が、以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 III 容器への収納の状態海上において運送される有害物質  
SOLAS VII (危険物の運送)  
IMDG コード (国際海上危険物規則)
- 同付属書 IV 船舶からの汚水による汚染の防止のための規則

(ケーススタディ)

休憩中 Michael Hickman 氏が、実船訓練のグループにそれぞれ別々のケーススタディを与え、休憩時間等を利用して、グループが集まり議論するよう誘導した。翌日の訓練に備え、チームワークを結束する意図もあった。

引き続き、Gaete 氏が以下の講義を行った。

- 同付属書 V 船舶からの廃物による汚染の防止のための規則
- 同付属書 VI 船舶からの大気汚染防止のための規則

次に、Gaete 氏は以下の講義を行った。事前に南米 PSC 地域組織事務局から、扱ってほしいとの依頼を受けていたもののひとつである。

- PSC on LNG Tankers

昼食後、Jatinder Gill 氏 (カナダ) が、翌日の実船訓練を意識した以下の講義を行った。

- PSC の手順(PSC procedures)

実際の PSC の手順を、写真や関連条約を交えながら、IMO 総会決議 (IMO Resolution A. 1052(27)) に沿って説明した。同決議の Appendix I の PSC 職員の行動規範(Code of Good Practice)は、東京エムオウユウ事務局が説明を担当した。事務局の講義では、PSC 職員の責任(PSCO Responsibility と船主・旗国等からのアピール (不服申し立て) への対応も扱う予定であったが、進行が予定より大幅に遅れているので割愛した。

(Prefectura Naval Argentina の組織紹介)

休憩後、Prefectura Naval Argentina の国際室部長 (Head of International Affairs Office) の Roberto Annichini 氏が、Prefectura Naval Argentina の組織や、PSC を取り扱う部署の位置づけを説明するプレゼンテーションを行った。

(ケーススタディ)

次に、Hickman 氏が午前中に配布したケーススタディの各グループでの討議結果を、各リーダーに発表させた。

(実船訓練情報)

Prefectura Naval Argentina の情報により、翌日タンカー、コンテナ船、客船 2 隻で実船

訓練を実施できることが判明したが、講師陣は PSC 初心者が多い今回の研修参加者の客船での PSC 実習は無理があるとの見解に達し、タンカーとコンテナ船で 2 グループが実習を行い、残りの 2 グループは教室でケーススタディ等の演習をすることとなった。

#### (Virtual PSC)

チリ講師 Roberto Gaete 氏による、Virtual PSC (仮想 PSC)が行われた。参加者は PSC を机上で模擬体験した。

#### ④ 座学研修中の状況と課題

##### a) 研修参加者

##### i. アルゼンチンからの参加者 (6名)

アルゼンチン全土から集まっていた。全員が旗国検査官等との兼任である。全員が国内初級 PSC 研修の受講者である。語学の問題もあるのか、講義中は比較的小となしかったが、少人数のケーススタディでは皆積極的に発言・質問をしていた。この研修を受講することで、国内研修の上級 (Advanced) コースを修了したとみなされるとのことだった。

##### ii 南米 PSC 地域内からの参加者 (6名)

ブラジル 1名 (IMO 費用負担)、チリ 1名、コロンビア 1名、パナマ 1名、ペルー 1名、メキシコ 1名 (IMO 費用負担) 合計 6名が参加した。コロンビアからの参加者は初心者で、あとの参加者は PSC 経験であった。パナマからの参加者は経験と知識が豊富のように見受けられた。メキシコからの参加者は、語学力のせいで寡黙だったが、翻訳ソフト等を駆使して勉強熱心だった。

##### iii 他地域からの IMO 招へい者 (6名)

ナイジェリア 1名、グルジア 1名、トルコ 1名、トリニダード・トバゴ 1名、バングラデッシュ 1名、オマーン 1名計 6名であったが、ナイジェリアは PSC 初心者であったが、あとの参加者は、経験と知識も持ち合わせていた。

##### iv カリブ海地域 PSC 組織加盟国、セントビンセント及びグレナディーン諸島からの参加者 (1名)

自国費用での参加とのことで、熱心に参加していた。PSC 経験は少ないようだった。

##### b) 教材

IMO 総会決議(A.1052(27))の説明が、複数の講師の講義に組み込まれていた。今後、一人の講師に委ねる、またはパラグラフ等で各講師の分担範囲をあら

かじめ決めておく等の、可能な範囲で講師間の刷り合わせが必要という認識を持った。

c) 講師ミーティング

講師陣と事務局は頻繁にミーティングをし、互いに把握した各研修生の経験やレベルの情報交換や、講義の手法、時間の配分等について話し合った。

### 3.4 実地研修

#### グループ分け

講師陣は、各参加者全員に PSC 経験と英語の習得度等について事前にアンケートを取り、それを基に経験や英語力が偏らないように、3月13日木曜日講義終了後にミーティングを持ち、事前に組み分けをした。講師4人が1グループずつ担当するよう、計4グループに分けた。3月15日金曜の講義開始前にグループの構成を発表し、同じグループ同士が休憩時間等を利用して、実船訓練への期待を含めたお互いの情報交換を早速始めるよう促した。

#### 実船訓練実施要領

①3月17日(月)、翌日3月19日(水)に2船にて実施予定の実船訓練の実施要領について、アルゼンチン当局との打ち合わせ内容を踏まえ、講師を代表して Roberto Gaete 氏が下記の通り説明した。

- a) 講師やアルゼンチン以外の参加者は、アルゼンチン国内で PSC を行う権限がないため、アルゼンチンの PSC 官の PSC を観察するのみとし、気付いた点は訓練終了後の討論会で指摘する。
- b) PSC 後はグループ毎にレビューを行い、実習中の疑問等を解決する。また実習内容のプレゼンテーションを作成する。
- c) 実習の翌日、グループ毎に、PSC の手順に沿って発表を行う。そのため、あらゆる箇所の写真を取ることが必須。

#### 7日目 実船訓練及びケーススタディ等 (3月18日 火曜日)

##### ① 実船訓練

事前の打ち合わせ通り、2グループのみが、それぞれコンテナ船(予定していたのタンカーが出航)で実船訓練を行った。実習船の詳細は別紙5の通りである。各グループに配置されたアルゼンチンの研修生は経験が浅いため、経験の豊富なアルゼンチンの PSC 官(今回の研修には参加していない)がそれぞれ1名~2名ずつ参加し、アルゼンチンの研修生と共に PSC を行った。担当講師(カナダと日本)によれば、ひとつのグループは多くの欠陥が指摘されたものの効率的な PSC を行なっていたようだが、もうひとつのグループは時間配分等に改善の余地があったようだ。

##### ② 実習のレビュー

下船後の各グループは、担当講師とともに、実習の内容を振り返った。また翌々日のプレゼンテーションも作成し始めた。

③ 救命艇並びにパイプ関連の講義及び MARPOL 関連ケーススタディ  
実習に行かなかった 2 つのグループのために、終日以下の講義やケーススタディが用意された。

- 救命艇関連講義 (Michael Hickman 氏担当)  
総練 (ドリル)  
PSC の手順、チェックすべき点等  
離脱のメカニズム
  
- MARPOL 付属書 I 関連のケーススタディ計 6 問 (Roberto Gaete 氏担当)
  
- パイプ関連講義 (Michael Hickman 氏担当)

少人数での講義・演習だったため、それまでほとんど発言や質問のなかった参加者が積極的に参加し、講師もそれらに丁寧に対応していた。またケーススタディは実船訓練のグループで討議して答えを導き出し、翌日の実船訓練に向けてのチームワーク育成にも役立った。

#### 8 日目 実船訓練及びケーススタディ等 (3 月 19 日 水曜日)

この日は残りの 2 グループが、それぞれの船 (コンテナ船 2 隻) で実船訓練を行った。前日と同じ、実習船の詳細は別紙 5 の通りである。

この日の実船訓練には東京エムオウユウ事務局も参加した。アルゼンチン PSC 官の PSC は、標準的な PSC を行っているように見受けられた。一部の措置コードの使い方に、アルゼンチン特有な解釈があるように見受けられた。

昨日実習を行ったグループは、Michael Hickman 氏と Roberto Gaete 氏によって、昨日と同じ講義と演習が実施された。

#### 9 日目 実船訓練発表及びケーススタディ等 (3 月 20 日 木曜日)

##### ① 研修生による実習内容の発表

研修生は実習グループ毎に集まり、実習内容のパワーポイントで作成を再開した。各グループ代表者が、実際行った PSC の手順に従い、写真を用いながら、チェックした箇所、気付いた点、実際に取った処置等を発表した。その後、取った措置や措置コードが適切なものであったかについて、全参加者が活発に討議した。講師陣は討論を促し、助言や示唆を与えた。

## ② Recognized Organization(RO)の責任

休憩後、Michael Hickman 氏は、PSC 官には必須の知識であると、東京エムオウユウのガイドラインに基づき、上記講義を行った。

### 10 日目講評及び閉講式 (3 月 21 日 金曜日)

#### ① 講師による船上実習 2 回の講評

2 回の船上実習にオブザーバーとして参加した、大山 元氏 (日本) と Jatinder Gill 氏 (カナダ) がそれぞれの実習の講評をした。

(大山 元氏の講評から抜粋)

- あまり悪そうな船でなければ、船員にすべての機器をテストさせなくてもよい。
- チェックする書類をあらかじめ、選定しておく。
- 基礎研修や、情報を共有することの重要性 (大山氏が使用したパワーポイントのスライドは別紙 6)

(Jatinder Gill 氏の講評から抜粋)

- 船側に対して、アルゼンチンの PSC 官は適切な質問をしていた。
- 判断に迷ったら、上司や同僚に相談することが大事。
- 措置コードの書き方に改善の余地あり。

## ② 船上実習の状況と課題

(全般)

アルゼンチンの PSC 官が PSC を実施し、講師を含む外国人参加者はそれを観察する形で実習は行われた。この研修に参加していないアルゼンチンの現役 PSC 官も各実習に参加して、研修参加中の PSC 官と共に PSC を行った。観察する限りでは、時間配分や Form B の記入等において、どの PSC 官も経験が浅いように見受けられた。理由のひとつとして、PSC 官が旗国検査などの他業務を兼務しており、PSC に専念できない国内事情があるようだ。

(措置コード)

アルゼンチンでは、指摘した欠陥に対して措置コード 17(Rectify before departure)を振った場合、PSC 官が翌日再訪船して、是正を確認後、コード 10 (Deficiency rectified)を振るのが一般的のようであるように見受けられた。各講師陣は、その場で是正が可能な軽微な欠陥であれば、PSC 官が下船前には是正を確認し、その場で 17 を 10 に変えることを勧めていた。ちなみに、アルゼンチンでは再訪船につき、35 米ドル程度を徴収しているとのことだった。

東京エムオウユウ事務局が参加した実習において、航海灯の電球が切れていたのに対し、PSC 官が 17 を付けた例があった。他の軽微な欠陥(コード 16: Rectify deficiency within 14 days) も 2 点あった。航海灯の欠陥に関しては、PSC 終了までに船員が新しい電球と交換し、PSC 官もその航海灯の作動を確認したので、カナダ講師(現場ではオブザーバー)は、10 を付加することを助言した。それに対し、PSC 官は航海灯の欠陥を記載してあった Form B を破棄し、それ以外の 2 つの欠陥のみを記載した Form B を作り直したので、カナダ講師は、破棄するのではなく、航海灯の欠陥の措置コード”17”を “17/10” とすればよかったと指摘した。PSC 官も納得していた。

アルゼンチンでは指摘した全ての欠陥に、コード 50 (Flag state/council informed) と 70 (Recognized Organization informed) を振っているようだ。これは、PSC 官が実際に旗国や代行機関に通告した事実を反映したものではなく、船長に通告を促すために振るとのことだったが、不適切と思われた。

(その他)

アルゼンチン当局の、実習当日の PSC 対象船の情報は早くて確であり、また港までの交通手段の手配も効率よく、計画通りに実習をすることが出来た。

### ③ 参加者の研修全般に対する講評

参加者はそれぞれ 2 週間の研修についての感想を口頭で求められた。参加者は一様に有意義な研修だったと述べ、講師陣の尽力により、活発な授業が展開されたことに対し感謝の辞を述べた。これまで受講した PSC 関連の研修の中で、最高の研修であったと述べた参加者も数多くいた。講師もそれぞれやり甲斐のある 2 週間だったと述べ、提供したプレゼンテーションを積極的に活用してほしいと述べた。

### ④ 閉講式

その後、閉講式と修了証書授与式が開催された。南米 PSC 地域組織事務局長の Andrés Manuel Monzon 氏、東京エムオウユウ事務局及び Prefectura Naval Argentina 国際部部长 Roberto Annichini 氏からそれぞれから閉会の挨拶があった。Andrés Manuel Monzon 氏は、東京エムオウユウの協力、日本財団及び国際海事機関 (IMO) の資金援助に対し感謝の意を強調した。

次に講師を代表して Michael Hickman 氏 (オーストラリア) が挨拶を行った。引き続き、講師による各研修生への修了証書及び、南米 PSC 地域組織事務局と東京エムオウユウ事務国から講師への感謝状の手交が行われた。2 週間に亘る研修はこれで幕を閉じた。

## 2.5 研修全体を振り返って

### ① アルゼンチンにおける PSC

(全般)

2013年におけるアルゼンチンの検査率(入港した外国船の入港隻数のうち、PSCを実施した船舶数の割合)は37%で、地域目標検査率の20%を大きく上回っている。南米地域PSC組織事務局を抱えるアルゼンチンが、中南米地域の中心的役割を果たしていることは間違いない。PSC国内研修は初級(basic)及び上級(Advanced)コースが設置されている。初級は座学と実務の計2週間のコース、上級は1週間で座学のみである。今回の参加者全員が既に初級コースを終えていて、今回の研修は国内の上級コースと同等と位置付けられていたようだ。

実習を通じて感じたのは、全体的な傾向としてPSCの経験が浅いことである。ラプラタ川を頻繁に往来する近隣諸国へのフェリーの検査等に時間を取られ、PSCに専念できない、またPSC官の異動が頻繁にあるため、腰を据えてPSCを学べない等の事情があるようだ。アルゼンチン参加者は、この研修でより深い知識やスキルをじっくり学びたいという期待が高く、また、非常に有意義だったとの感想を述べた。

(PSCデータベース)

PSC部門のイントラネット内のPSCデータベースを見せてもらう機会があった。域内でPSCを受けたことのある船舶データとPSCの履歴が容易に検索でき、船舶の外観の写真までが掲載されていた。それぞれの欠陥コードには、根拠となる条約の条項が併記されており、PSC官が船上で端末で参照するとのことだった。

## ② 他国からの参加者

他国からの参加者の一部は初心者であったが、経験を積んでいる者もいた。数名は、PSCに特化した研修を受けたことはあるが、この研修ほど内容が充実していて、レベルの高いものは受けたことがないと口を揃えていた。

## ③ 講師陣の指摘事項

講師陣には別途、講師の立場から今回の研修の評価を書面にて提出してもらった。以下に、それらの講評や示唆をまとめたものを示す。

### a) 座学

- 各講師の努力により、PSCに特化した講義が効率的に行われていた。
- 初日の”Convention Overview”の講義で、関連条約の概要を説明していたが、IMO総会決議(A.1052(27))(PSC実施要領)のみとするのはどうか。SOLAS等の説明は、各条約の講義で説明すればよい。
- 各条約が要求する証書類をひとつにまとめた講義をSOLAS Iの講義の中に組み込んだらどうか。
- 欠陥内容をFORM Bに的確に記入する演習(deficiency writing)を取り入れたらどうか。

- MAPOL の講義を 1-2 日に集中させず、分けたらどうか。

b) 実船訓練

どの研修生も真剣に取り組んでいた。初心者には実船訓練の回数を増やすよりも、Virtual PSC（仮想 PSC）で学ぶ方が効果的であるし、船側の負担の軽減になる。

c) ケーススタディ

- 少人数で実施したので、参加者は発言しやすく、参加者同士及び講師との議論も活発に行われた。
- 実際の事例に基づいた設問は、リアリティがあり、参加者に考える機会を与えた。
- 実船前のチームワークづくりにも役立った。

d) 全般

- 参加者の評価が全体的に高くよかった。
- 事前に参加者の PSC 経験の情報が欲しかった。
- 研修最後に、参加者の理解度を図る小テスト実施したほうがいい。
- 講師間での打ち合わせを頻繁に行い、予期しなかった状況にも柔軟に対応できたのはよかった。
- 東京エムオウユウ事務局を含めた講師陣のチームワークのよさが、今回の成功の原因である。

### 3. 研修全体に対する参加者の講評

別紙 7 に、各研修生の研修全体に対する講評を転記した。非常に有益だったとの声が多かった。内容に関しては、条約の講義も役に立ったし、実践的な演習も為になったとの声が多かった。また、他国の PSC 官との意見交換も貴重ととらえる声が多かった。

### 4. 今後の展望

南米 PSC 地域での第 2 回の「出前研修」は、ほぼ予定通り終了した。参加した PSC 官が、この研修で得た知識及び経験を活かし、彼らの国と地域において、検査の質の向上が図られることを願っている。今回の研修で、この地域には PSC が発展途上にある国が多いとわかった。今後研修の成果を期待したい。

多くの参加者は、それぞれの国で、今回の研修に資料を利用して自国 PSC 官用の研修を早急に行うと語っていた。

東京エムオウユウが培った研修のノウハウが、発展途上にある他地域 MOU 等の手助けになることを改めて実感した。今回の研修が好評を博し、成功裏に終わったのは、講師としてご協力いただいた、AMSA の Michael Hickman 氏、カナダの Jatinder Gill 氏、チリの Roberto Gaete 氏、国土交通省の大山 元氏のご尽力の賜物に他ならない。

特に Roberto Gaete 氏に時には通訳もお願いし、多岐にわたりご貢献いただいた。また、Michael Hickman 氏には、ケーススタディ作成や予定になかった講義等、柔軟に対応していただいた。

各講師からも講師として参加したことは”rewarding”であったという感想をいただいた。この場を借りて各講師に深く感謝を申し上げたい。同時に、今回の研修のホストであった Prefectura Naval Argentina、共催者である南米 PSC 地域組織事務局と国際海事機関 (IMO) の全面的な協力があったこそ、円滑に実現ができた。改めてお礼を申し上げたい。



開講式（2014年3月10日）風景



講師陣と事務局



講義風景



講師 Michael Hickman 氏 (AMSA)

## 講義風景



講師 Jatinder Gill 氏 (Transport Canada)



講師 Roberto Gaete 氏 (チリ)



受講者



講師 大山 元氏(国土交通省)

実船訓練



## 実船訓練のプレゼンテーション



## 講師講評



閉講式 (2014年3月21日)



Michael Hickman 氏による講師代表挨拶

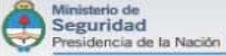


修了証書授与



講師への感謝状授与

研修の様子を伝える PREFECTURA のホームページ



Ministerio de Seguridad  
Presidencia de la Nación



**PREFECTURA  
NAVAL ARGENTINA**  
PROTECCIÓN DE LAS AGUAS Y EL COMERCIO DESDE 1810

28 de Marzo de 2014

**Inicio**

Institucional

Actividades

Educación

Ordenanzas

Prefectura en la OMI

Guía de trámites

Consultas / Reclamos

Buscar

**0800-888-7730**  
Lunes a Viernes 9 a 17 hs.

**Emergencias**  
**106**



**Guía de Prefecturas**



Ministerio de Seguridad  
Presidencia de la Nación

**Seguro de Vida**



**Personal Retirado**

**Atención a las víctimas de la VIOLENCIA**

**Trata de Personas**



**CENTRO INTEGRAL DE GÉNERO**

Instituto Universitario de **SEGURIDAD MARÍTIMA**





**NOTICIAS**

**DIECISEIS PAÍSES PARTICIPAN DE UN CURSO DE CAPACITACIÓN EN LA PREFECTURA NAVAL ARGENTINA**



SALÓN MANTILLA | EDIFICIO GUARDACOSTAS | BUENOS AIRES | ARGENTINA

Entre el 10 y el 21 de marzo se desarrolla, en el Edificio Guardacostas, el II Curso de Formación Avanzada para Oficiales de Supervisión por el Estado Rector del Puerto, que cuenta con la coordinación del Ministerio de Seguridad de la Nación.

El acto de inauguración del curso fue presidido por el Prefecto Nacional Naval, prefecto general Luis Alberto Heiler y estuvieron presentes representantes del Ministerio de Seguridad de la Nación, del Memorando de entendimiento de Tokyo y de la Secretaría del Acuerdo de Viña del Mar.

La actividad se desarrolla en el marco de las gestiones realizadas por la Secretaría del Acuerdo Latinoamericano sobre el Control de Buques por el Estado rector del Puerto (Acuerdo de Viña del Mar) con el Memorando de Entendimiento de Asia-Pacífico (MoU de Tokio), a fin de mejorar, mediante actividades de cooperación técnica en la región, la formación de los oficiales de supervisión por el Estado rector del puerto (OSERP).

El Acuerdo de Viña del Mar es un convenio operacional entre las Autoridades Marítimas de las Américas, con el fin de armonizar las actividades de supervisión por el Estado rector del puerto, en tanto el MOU de Tokio ([www.tokio-mou.org](http://www.tokio-mou.org)) es la organización equivalente en cuanto a objetivos de la región Asia-Pacífico. En este sentido, la sede de la Secretaría del Acuerdo de Viña del Mar se encuentra en Prefectura.



La Supervisión por el Estado rector del puerto es la actividad de verificación del cumplimiento de los convenios internacionales de la Organización Marítima Internacional (OMI), que realizan los Estados a buques de otras

## 研修の様子を伝える **PREFECTURA** のホームページ (前ページからの続き)



banderas que recalán en sus puertos.

En este marco, Prefectura, dependiente del Ministerio de Seguridad de la Nación, actúa en calidad de Autoridad Marítima anfitriona del II Curso de Formación Avanzada para Oficiales de Supervisión por el Estado Rector del Puerto.

Durante dos semanas, miembros de las organizaciones de estado rector de Australia, Bangladesh, Brasil, Canadá, Chile, Colombia, Georgia, Japón, México, Nigeria, Omán, Panamá, Perú, San Vicente y las Granadinas, Turquía y Trinidad y Tobago debaten y comparten conocimientos en la materia, bajo la dirección de expertos calificados.

La actividad cuenta con el apoyo de la Nippon Foundation y la Organización Marítima Internacional.

## 別紙 1

### 南米 PSC 組織事務局長による開会の挨拶

Adm. Luis Alberto HEILER, Prefectura Naval Argentina Commandant.

Ms. Fumiko AKIMOTO, Training Director of the Secretariat of the Asia Pacific Memorandum of Understanding

Experts appointed as Trainers by the Tokyo MoU.

PSCOs attending as trainees.

Authorities, special guests and observers.

The capacity building to ensure universal and uniform application of the International Maritime Organization (IMO) instruments and other additional rules is crucial and very important for developing a standardized port State control (PSC) activity in a consistent and harmonized manner for safer and more secure shipping, enhanced environmental protection and facilitation of international maritime traffic.

Since the beginning of these control activities in the Latin American region, PSCO's training has been a constant concern of all members, particularly at the time of acquiring the necessary mechanisms and proper financing to conduct joint and coordinated activities.

Even though progress has been made and diverse technical cooperation has been received for such purpose from organizations such as the International Maritime Organization, through the Operative Network for Regional Cooperation among Maritime Authorities of the Americas (ROCRAM) and the Tokyo or Paris MOUs, these events are mostly basic training programs and of limited dissemination. Consequently it is highly necessary to advance to specialization courses with global interaction and exchange.

In this regard, the Workshop for the MOUs/Agreements Secretaries and Administrators of Information Centres, convened by IMO in 2011 provided information on extra-regional cooperation programs being carried out by Tokyo MOU Secretariat, with financial support from the Nippon Foundation as well as support from the IMO itself. Consequently, through personal contact with the Secretary of the Memorandum, Mr. Mitsutoyo Okada, it was agreed to explore the possibility that the Latin American Region could be included in the future.

Thanks to the interaction from then on, and to the goodwill and efforts made by the

members of the Tokyo MOU Secretariat, progress was made towards the completion of a first course in Ecuador during March last year, with great success and recognition for the objectives achieved. It was carried out under a similar process of organization such as today's event.

Fortunately, after that first experience, we were informed by the Secretary of the Tokyo MOU that the Nippon Foundation had arranged the allocation of funds to assist in the organization of two other courses in our region during subsequent fiscal years. This fact allowed us to continue the joint efforts needed to carry them out.

Thanks to the willingness shown by Prefectura Naval Argentina to promote and support these training activities, acting as the host of this second event, we could go forward with the necessary planning to meet today in this beautiful city of Buenos Aires in an effort to facilitate knowledge exchange and joint training.

To guide us in this task, the Tokyo MOU Secretariat has not only contributed with its extensive experience in course planning, but has also sent its Training Director to help us, and four instructors -specially selected from their members- to share their knowledge and experience with us. In this regard, we especially appreciate the contribution made by the Maritime Administrations of Australia, Canada, Chile and Japan which made their experts available to us.

It is a great challenge for this Secretariat to collaborate in promoting and being part of the planning of an advanced course of these characteristics. We believe that due to its specificity, scope and international significance, it represents the beginning of a long-awaited project in our region.

Many efforts were necessary to carry out these activities which we wish to highlight, and we would also like to give special thanks to:

- ✓ The Tokyo MOU Secretariat for having taken such challenges and having thought about how to provide its experience and resources to help other regions like ours in this essential joint training activities,
- ✓ The Nippon Foundation for the funds provided to finance the trainers and organizational activities,
- ✓ The International Maritime Organization for financing the attendance of participants from other MoUs and this region,
- ✓ the Operative Network for Regional Cooperation among Maritime Authorities of

the Americas (ROCRAM), for their concern in supporting these activities and encouraging maximum participation of their members.

- ✓ the Secretariats of other Regional Regimes and Maritime Administrations who have made every effort to send participants, and
- ✓ Prefectura Naval Argentina, not only for assuming the role as host of this event, but also for providing a sustained support to this Secretariat and the Information Centre of this Regional Agreement.

Convinced of the success and fruitful results of this advanced course, it is my intention to express to you that the members of this Secretariat are at your disposal to collaborate with you in everything you may need.

Thank you very much.

\* \* \*

## 別紙 2

### 東京エムオウユウ事務局による開会の挨拶

Prefecto General, Prefectura Naval Argentina, Sr. Luis Alberto Heiler  
Prefecto General, Secretario Acuerdo de Viña del Mar, Sr. Andrés Manuel Monzon  
PSC officers from Argentina, Brazil, Chile, Columbia, Mexico, Panama, Peru, Nigeria,  
Georgia, Saint Christopher and Nevis, Saint Vincent and the Grenadines, Trinidad and  
Tobago, Turkey; and Oman  
Instructors from Australia, Canada, Chile and Japan  
Ladies and Gentlemen,

On behalf of Mr. Mitsutoyo Okada, Secretary of the Tokyo MOU Secretariat, I would like to express my sincere appreciation to Prefectura Naval Argentina and Viña del Mar Agreement Secretariat for inviting us to the second training course on Port State Control in Viña del Mar Agreement region. We have come over here to share PSC procedures and experiences with you.

It is no longer necessary to emphasize how important and effective PSC is in maritime safety and security. The world has identified the importance and the significance of PSC, and it is for this reason that as many as nine PSC regimes have been established in the world so far. Each of the PSC regimes is making continued effort to introduce uniformed PSC procedures in its own region and spread them among its region.

In the Tokyo MOU, unlike the Paris MOU, our members have a variety in the development in PSC, and therefore the Port State Control Committee in our MOU pays special attention to the development of training for PSC officers in our region. The total number of PSC officers who have participated in our training courses amounts to more than 1,000. As a result, in recent years, the number of inspections in the Tokyo MOU has been recorded more than that of the Paris MOU. At the same time know-how of organizing and implementing trainings has been accumulated in the Tokyo MOU.

Other than trainings for PSC officers in the Tokyo MOU region, the Tokyo MOU has had a challenge to deliver PSC training courses in the Indian Ocean MOU region since 2009 at the request of the Indian Ocean MOU Secretariat. All of the training courses were successful. Today we are here to organize the second PSC training in the Viña del Mar region at the request of the Viña del Mar Agreement Secretariat, not because we are rich, but we felt the imminent need to strengthen inter-regional cooperation among the MOUs for enhancing standardization of PSC procedures in the world based on the

recognition that ships are sailing across regional MOUs. We are here to share with you, based on the IMO Resolution A.1052 (27), common understanding and interpretation of conventions and regulation relevant to PSC. IMO shares this view, and following the first training in Guayaquil, Ecuador in 2013, the Organization provides funds in order to allow six PSC officers from other regions and two from this region to participate in this course.

The Tokyo MOU Secretariat would like to take this opportunity to express its sincere appreciation to the Viña del Mar Agreement Secretariat and Prefectura Naval Argentina to initiate this project.

As instructors for this course, we invited four: from Australia, Canada, Chile and Japan. I would like to thank the Nippon Foundation for providing funds for the instructors and myself as a coordinator to come and stay here.

I hope the training will be fruitful and all of us will have a good time here in this beautiful and historical city for two weeks. I, on behalf of the Tokyo MOU Secretariat, would like to thank again Prefectura Naval Argentina to host this training and its staff who have been working hard behind the scene to organize this training.

Thank you for your attention.

\* \* \*

別紙 3  
参加者リスト

1. アルゼンチンからの参加者 (6名)

1	Mr. Alexis David Millan
2	Mr. José Patricio Gonzalez
3	Mr. Federico Vega
4	Mr. Ricardo Mariel Segura
5	Mr. Julio Ricardo Rios
6	Mr. Cristian Iván Rodriguez

2. Viña del Mar 地域アルゼンチン以外からの参加者 (6名)

7	Mr. Alexandre Socci	ブラジル (IMO 費用負担)
8	Mr. Fulvio Roman Hernandez	メキシコ (IMO 費用負担)
9	Mr. Ivar Alexander Burneo Flores	ペルー
10	Mr. Juan Pablo Martinez	パナマ
11	Mr. Juan Carlos Paez Rodriguez	コロンビア
12	Mr. José Andronico Ampuero Lavado	チリ

3. 域外参加者 (7名)

13	Mr. Vincent Chibueze Udoye	Abuja MOU	ナイジェリア	IMO 費用負担
14	Mr. Sirabidze Irakli	Black Sea MOU	ジョージア	IMO 費用負担
15	Mr. Francis Weekes	Caribbean MOU	トリニダード・トバゴ	IMO 費用負担
16	Mr. Hyron Maxville Johnson	Caribbean MOU	セントビンセント及びグレナディーン諸島	自国費用負担
17	Mr. S. M. Nazmul Huq	Indian Ocean MOU	バングラデッシュ	IMO 費用負担
18	Mr. Günhur Sanli	Mediterranean MOU	トルコ	IMO 費用負担
19	Mr. Hamdan Rashid Al-Mamari	Riyadh MOU	オマーン	IMO 費用負担

\*\*\*

別紙 4  
時間割

Date		Activity	Instructor
9-Mar-2013/Sun		Arrival of experts and participants in Buenos Aires	
10-Mar-14 Mon	08:30 - 09:00	Preparation	
	09:00 - 10:00	Opening Ceremony and Introduction (Remarks by the host Authority, VMA, TMOU, leading instructor and self-introduction of participants)	
	10:00 - 10:30	Coffee Break	
	10:30 - 11:30	Activities of Viña del Mar Agreement	VMA
	11:30 - 12:00	Activities of Tokyo MOU	TMOU
	12:00 - 13:00	Relevant Instrument Overview (Structure of IMO) SOLAS, LL, MARPOL, STCW, Tonnage, COLREG, CLC, MLC2006)	Australia
	13:00 - 14:30	Lunch	
	14:30 - 15:30	Continued: Relevant Instrument Overview (SOLAS, LL, MARPOL)	Australia
	15:30 - 15:50	Coffee Break	Australia
15:30 - 16:30	Continued: Relevant Instrument Overview (STCW, Tonnage, COLREG, CLC, MLC2006)		
11-Mar-14 Tue	08:30 - 10:40	Continued: Relevant Instrument Overview (IMO Resolution A. 1052 (27) excluding 1.8, 1.9 and Appendix 1)	Australia
	10:40 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 13:30	PSC Guidelines for SOLAS I & SOLAS II-1 (A, A-1, B, B-1, B-2, B-3 & B-4)	Canada
	13:00 - 14:15	Lunch	
	14:15 - 15:40	PSC Guidelines for SOLAS II-1 (C, D, E & F)	Japan
	15:40 - 15:55	Coffee break	
15:55 - 17:00	PSC Guidelines for SOLAS II-2	Japan	
12-Mar-14 Wed	08:30 - 08:35	RECAP	Leader
	08:35 - 09:15	Continued: PSC Guidelines for SOLAS II-2	Japan
	09:15 - 10:30	PSC Guidelines for SOLAS III	Japan
	10:30 - 11:00	Coffee break	
	11:00 - 11:20	Video on release mechanism (related to SOLAS III)	Japan
	11:20 - 12:05	PSC Guidelines for SOLAS IV	Japan
	12:05 - 13:05	PSC Guidelines for SOLAS V	
	13:05 - 14:25	Lunch	
	14:25 - 15:30	PSC Guidelines for Operational Requirements	Canada
	15:30 - 16:05	Coffee break	
16:05 - 17:00	PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	Australia	
13-Mar-14 Thu	08:30 - 10:00	Continued: PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code	Australia
	10:00 - 10:40	PSC Guidelines for SOLAS XII and VI	Australia
	10:40 - 11:05	Coffee break	
	11:05 - 12:55	PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.2)	Australia
	12:55 - 14:15	Lunch	
	14:15 - 15:30	PSC Guidelines for SOLAS XI-1 (Reg.3 & 5), XI-2 & ISPS Code	Japan
	15:30 - 16:00	Coffee break	
	16:00 - 17:00	PSC Guidelines for Load Lines	Canada
15:30 - 16:30	PSC Guidelines for STCW	Canada	

<b>Date</b>		<b>Activity</b>	<b>Instructor</b>
14-Mar-14 Fri	08:30 - 10:15	RECAP of the week	Leader
	10:15 - 10:50	Coffee break	
	09:00 - 13:00	PSC Guidelines for MARPOL I	Chile
	13:00 - 14:15	Lunch	
	14:15 - 15:00	Continued: PSC Guidelines for MARPOL I (including Inert Gas System)	Chile
	15:00 - 15:40	PSC Guidelines MARPOL II	
	15:40 - 16:05	Coffee break	
	16:05 - 17:00	Continued: PSC Guidelines MARPOL II	Chile
15-Mar-14 Sat		Navigation on Delta de Tegre	
16-Mar-14 Sun			
17-Mar-14 Mon	08:30 - 09:35	PSC Guidelines for MARPOL III, SOLAS VII & IMDG	Chile
	09:45 -10:20	Coffee Break (distribution of case study questions)	Australia
	10:20 -10:40	PSC Guidelines for MARPOL IV	Chile
	10:50 - 12:15	PSC Guidelines for MARPOL V and VI	Chile
	12:20 - 12:50	PSC on LNG Tankers	Chile
	13:00 - 14:00	Lunch	
	14:00 -14:25	PSC Procedures (selection of target ships, PSC inspections, detention procedure, etc.)	Canada
	14:15 - 14:40	PSCO Responsibility (Code of Good Practice)	TMOU
	14:40 - 15:30	Continued: PSC Procedures	Canada
	15:30 - 15:50	Coffee break	
	15:55 - 16:05	Organization of Prefectura Naval Argentina	Argentina
16:05 - 16:20	Announcement of case study answers by Group	Participants	
16:20 - 16:40	Preparation for On-board Inspection 1: selection of ships		
	16:40 -17:00	Virtual PSC	Chile
18-Mar-14 Tue	08:30 -17:00	On-board Inspection and review by Groups 1 and 2	Canada & Japan
		Case studies by Groups C and D  (interrupted by coffee breaks and lunch)	Australia & Chile
19-Mar-14 Wed	08:30 -17:00	On-board Inspection and review by Groups 3 and 4	Canada & Japan
		Case studies by Groups A and B  (interrupted by coffee breaks and lunch)	Australia & Chile
20-Mar-14 Thu	08:30 -10:00	Preparations for presentations of on-board inspections	
	10:00 - 10:30	Coffee break	
	10:30 -10:40	Guidelines for RO responsibility	Australia
	10:40 -12:40	Presentations by 4 Groups	
	12:40 - 14:00	Lunch	
21-Mar-14 Fri	08:30 -08:50	Preparation	
	08:50 -09:30	Observations of onboard inspections by instructors	Canada & Japan
	09:30 -10:00		
	10:00 - 11:00	Closing Ceremony (Remarks by the host Authority, VMA and TMOU Secretariats and the expert) Awarding certificates to the participants	
	11:00 - 12:00	Farewell cocktail lunch	

\*\*\*

別紙 5  
実船訓練船リスト

実施日：2014年3月18日（火）

グループ 1（同行者：Jatinder Gill 氏(カナダ)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
ASTURIANO	9259836	Container	9,966	Panama	2003		No

グループ 2（同行者：大山 元氏(日本)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
MSC VITTORIA	9299551	Container ship	89,954	Panama	2006	GL	No

実施日：2014年3月19日（水）

グループ 3（同行者：大山 元氏(日本)）

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
R. R. EUROPA	9236664	Container ship	25,580	Italy	2001	RINA	No

グループ 4（同行者：Jatinder Gill 氏(カナダ)及び秋元文子（事務局））

Name	IMO No.	Type	GRT	Flag	Year of Build	Class	Detention
MOL GRATITUDE	9535187	Container ship	59,307	Hong Kong, China	2010	DNV	No

\*\*\*

別紙 6  
大山講師による助言

**Suggestion for improvement of PSCO capacity**

1. Basic training such as convention requirements and PSC procedures should be provided for new comers
2. On board training  
Senior PSCO should instruct PSCOs who do not have enough knowledge and experience.
3. Work shop
  - ① Exchange information of PSC each other.
  - ② Case study
  - ③ Share PSC knowledge with every other PSCO
  - ④ Unify criteria of judgment of deficiencies or detainable deficiencies

別紙 7  
研修生の研修全般に対する講評

Participant from Argentina

I think is necessary two training overall for more experience.

Participant from Argentina

The training was very good and I expect to return in the future for learn more of PSC.

Participant from Argentina

Deepening the explanations detailed in Standards of Training, Certifications and Watch keeping convention in order to increase knowledge.

Alexandre Socci (Brazil)

The class time is too long. We'll be necessary more time for the next course.

Fulvio Roman Hernandez (Mexico)

As far as I am concerned the course was developed with good organization, we have excellent instructors, were sufficient rest intervals and consider if fulfilled in a timely manner with the established program.

Francis Weekes (Trinidad and Tobago)

Great and provides excellent training material.

Vincent Chibueze Udoye (Nigeria)

My overall rating for this course is "Excellent". I think every port State control officers in the world should attend this course. I have attended other PSC courses and it was nothing compared to this one. The lecturers are very experienced, they are the best. They made the lecture very interactive. The practical content of the course should be improved. More time to visit ships. More time for delegation to present to lecturers.

Günhur Sanli (Turkey)

This expert course was very useful for me. I refresh my mind and knowledge. I think that this course will effect my profession on port state control in good order. Thank you very much to all parties, just of all IMO, Prefectura Naval Argentina, Tokyo MOU and all instructors for everything.

S. M. Nazmul Huq (Bangladesh)

Some PSC inspection reports should include during presentation and discussion could be on those PSC inspection reports.

Sirabidze Irakli (Georgia)

2<sup>nd</sup> expert training course on port state control was very useful for me, really good training course and instructors, one of the interesting and informative course I have been thoroughly enjoyable in a high standard of teaching. Many thanks to all parties.

Hamdan Rashid Al-Mamari (Oman)

Well organized and useful course. The instructors and content of their presentations was excellent. Including something about MLC2006 in future courses will be great since it has entered into force and some countries has notified it. More practical training is useful also.

Juan Pablo Martinez (Panama)

Thanks a lot for all.

Juan Carlos Paez Rodriguez (Columbia)

Maintain this type of training.

Hyron Maxville Johnson (St. Vincent and the Grenadines)

The training course was well received and the knowledge gained from this training will be used in my country region and Caribbean MOU. I think there should have been more time spent on the role and responsibility of classification society/ROs.